

## 掛川・福寿山龍登院

本堂など上棟式



柱や梁が組み立てられた本堂の前でお祝いの紅白餅がまかれた。掛川市上内田で

## 建て替え 250年ぶり

掛川市上内田の福寿山龍登院(川口素見住職)で二十八日、新しく建て替えている本堂などの上棟式があった。僧侶や檀家、工事関係者など計約三百五十人が出席し、工事の安全を祈った。

(佐野太郎)

式は、柱や梁など木組みがむき出しの本堂であり、「工匠之儀」などが営まれた。白い装束に身を包んだ工匠役の施工者が、くいを打つしぐさをするなど古式にならって儀式を執り行った。

龍登院では、二〇一四(平成二六)年のた。白餅四十俵がまかれ

開山禪師五百回忌に向けて準備が進められ、当初は本堂の修繕が計画されたが、築二百五十年で老朽化が著しいことが判明し、急ぎよ本堂や位牌堂、開山堂も建て替えることになったという。

新しい本堂などは、木造平屋建て延べ約四百九十平方メートル。耐震性の高い構造とし、岐阜県の東濃ヒノキを中心とし、岩手県の松の丸太などが使用されている。完成は来年秋の予定。

川口住職は「皆さまのおかげです。無事に完成することを祈っています」などと謝辞を述べた。式後は、あいの雨のなか境内に集まった人たちに紅